

栗原の稲作通信

令和6年 第5号 令和6年7月2日発行

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント○

1. 品種や生育量に合わせた追肥を行いましょう。
2. 斑点米カメムシ類の本田への侵入を防ぐため、水田畦畔の草刈りは出穂10日前までに終わらせましょう【管内の平年の出穂期は8月2日（過去5か年平均）】。
3. 用水の確保が難しい水田では中干し後に「飽水管理」を行いましょう。

1. 気象経過

○6月中旬（6/11～6/20）の最高・最低気温ともに平年と比較して高く推移しました。6月中旬の降水量はありませんでした。合計日照時間は平年を上回りました。

○6月下旬（6/21～6/30）の気温は平年と比較して、最低気温の6月第6半旬を除いて、高く推移しました。6月下旬の降水量は平年を下回りました。合計日照時間は平年を上回りました。

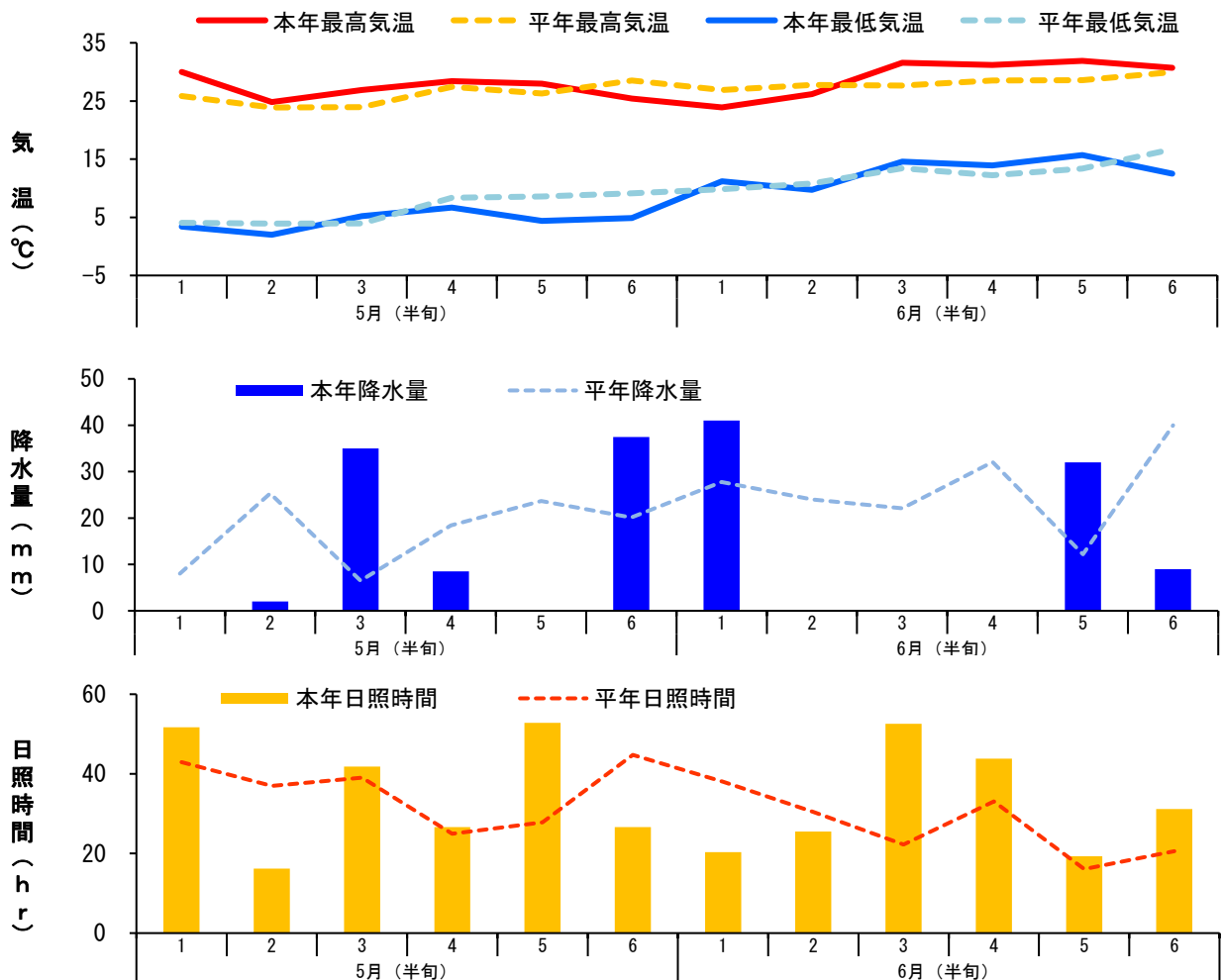


図1 5、6月の気象経過（築館アメダス） ※平年（点線）：令和元年～令和5年の平均値

2. 生育状況（7月1日現在）

1) 移植水稻

○県内における「ひとめぼれ」の平均値（18 地点）については、草丈は 54.9cm（平年比 107%）、茎数は 518 本（平年比 98%）、葉数は 10.3 枚（平年差 +0.3 枚）、葉色（GM 値）は 41.3（平年差 -1.6）となっており、草丈はやや長く、茎数は概ね平年並み、葉数はやや多くなっています。

- ・当管内の「ひとめぼれ」については、若柳では平年と比べ、草丈は長くなっているものの、茎数は少なくなっています。

また、一迫では平年と比べ、草丈は平年並みとなっていますが、茎数・葉数はともに少なくなっています。（表 1、ひとめぼれ）。

表 1 7月1日 生育調査結果（移植水稻）

品種	地区	田植日			草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉数 (枚)			葉色 (GM値)		
		本年	前年差	平年差	本年	(前年比)	(平年比)	本年	(前年比)	(平年比)	本年	(前年差)	(平年差)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	若柳	5/21	同日	1日遅	59.1	120	112	493	88	71	10.1	0.5	0.3	44.3	4.1	-0.3
ひとめぼれ	一迫	5/10	2日早	1日早	48.5	91	99	398	85	90	8.8	-1.8	-1.4	35.9	-5.0	-6.7
ひとめぼれ	県平均	5/12	同日	同日	54.9	102	107	518	100	98	10.3	0.1	0.3	41.3	-0.1	-1.6
つや姫	築館	5/23	5日遅	1日遅	50.5	98	109	381	(77)	(89)	9.4	0.7	0.0	44.0	0.5	-3.4
萌えみのり	金成	5/18	10日遅	6日遅	50.0	83	93	385	102	88	9.2	0.2	-0.5	48.1	1.6	0.0
だて正夢	古試	5/10	同日	同日	59.5	106	110	585	97	113	9.7	-0.3	0.1	42.5	0.3	-0.6
金のいぶき	古試	5/10	同日	-	53.8	101	-	659	103	-	10.0	-0.2	-	39.5	-0.1	-

注1：平年値は過去5年間（令和元～5年）の平均値。「ひとめぼれ一迫」は過去4年間（令和2～5年）の平均値。

注2：「つや姫 築館」は令和6年の栽植密度が変更されているため参考値（令和5年 15.3 株/m²、令和6年 12.2 株/m²）。

注3：「ひとめぼれ 県平均」は県内各普及センター及び古川農業試験場における 18 地点の生育調査結果の平均。

注4：「だて正夢」、「金のいぶき」は古川農業試験場の生育調査結果。

2) 乾田直播水稻

○生育は順調となっています。前年のひとめぼれに比べて、草丈が長く、茎数も多く、葉齢も多くなっています。

表 2 7月1日 生育調査結果（直播水稻）

播種様式	品種	地区	播種日		草丈 (cm)		茎数 (本/m ²)		葉数 (枚)		葉色 (GM値)	
			本年	前年差	本年	(前年比)	本年	(前年比)	本年	前年差	本年	前年差
乾田直播 グレーンドリル 播種	つきあかり	志波姫	4/8	5日早	60.1	145	495	106	9.7	+2.4	37.9	+2.6

注1：令和6年から品種を「つきあかり」に変更（令和5年は「ひとめぼれ」）。

注2：前年差・比は「ひとめぼれ」との参考比較。

3. 今後の栽培管理のポイント

1) 中干しと水管理

- 必要茎数を確保したら中干しを実施します。中干しの期間は7～10日間とし、遅くとも幼穂形成期（ひとめぼれで7月第2半旬頃）の前には終了しましょう。
- 中干しは、土の表面に軽くひびが入る程度を目安に、幼穂形成期までに終了しましょう。鉄コーティング湛水直播では、倒伏軽減のため強めに中干しを行いましょう。
- 必要茎数が確保されていないほ場では、中干しを行わず、浅水管理などにより、分けつを促して、必要茎数確保に努めましょう。
- 金のいぶきは、根が傷みやすいので強い中干しは避けましょう。
- 中干し直後は走り水程度として、徐々に湛水状態に戻しましょう。その後は間断かん水を基本とします。
- 幼穂形成期（幼穂長1～2 mm）から減数分裂期（幼穂長3～12 cm）にかけて、最低気温が17℃以下の日が続く場合は深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

* 用水の確保が難しい水田では中干し後に「飽水管理」を行いましょう。

～飽水管理とは～

従来の水管理方法に比べ、節水の効果が期待できます。また、間断かん水に比べ、より土壌を酸化的に保ち、根の活性が高まる管理法です。

- ✓実施時期：有効茎数確保後から出穂期まで。（出穂後は間断かん水を行う）
- ✓水管理の目安：水田の足跡に水がなくなったら入水し、表土が十分湿ったら落水。
- ✓かん水の間隔：概ね10～15日程度、梅雨の期間のかん水はほとんど不要。

最重要：入水が的確に行えるように、水田の溝切りは必ず行います。

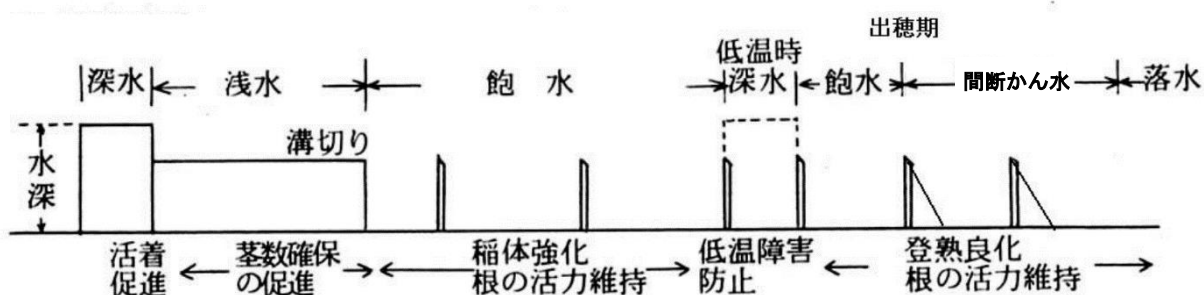


図2 飽水管理による水管理体系
(出典：宮城県稲作指導指針)

【地域で話し合い、限りある用水を有効に活用できるように工夫しまししょう】

◎お知らせ！

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

2) 品種や生育量に合わせた追肥を行きましょう。

○近年は出穂後の高温により、白未熟米が発生し、品質低下することが多くなりました。追肥は、穂揃期の葉色低下(窒素肥料の不足)を防ぐことにより、白未熟米の発生軽減や光合成能力の向上等の共通した効果に加え、施用時期によっても異なる効果が現れます(表3)。

表3 追肥の主な効果・影響(◎：効果高い、○：効果あり、×：悪影響あり)

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

○葉色が淡くなっているほ場や生育量が不足しているほ場では追肥を行きましょう(表4)

○幼穂長、生育量を把握して、品種毎に適期に適量の追肥を行きましょう(表4)。

○有機入り肥料を追肥で使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので、早めに施用しましょう。

表4 追肥時期の生育量と追肥量の目安 *生育量の範囲内~下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期(幼穂長1~2mm)			減数分裂期(幼穂長3~12cm)		
	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)
ひとめぼれ	470~530	38~40	1kg	450~500	35~37	1kg
ササニシキ	720~760	34~36	(しない)	550~580	32~34	1~1.5kg
つや姫	550~580	35~37	2kg	-	-	(しない)

★だて正夢の追肥量(窒素成分量/10a)

- 基本は「**減数分裂期2kg**」
- 茎数が不足する場合は、「幼穂形成期1kg + 減数分裂期1kg」
- だて正夢は、ひとめぼれ等の他品種より茎数が少なく、葉色が濃くなる傾向にあります。生育量が表の目安を超えている場合を除いて、基本的に追肥を行きましょう。

表5 だて正夢の生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数(本/m ²)	390~460	380~420
葉色(葉緑素計)	40~42	37~39

★金のいぶきの追肥量(窒素成分量/10a)

- 基本は「**幼穂形成期1kg + 減数分裂期1kg**」
- 金のいぶきの葉色は、ひとめぼれと比較して淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下します。安定した収量を確保するために、追肥を実施しましょう。

表6 金のいぶきの生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	65~70	80~85
茎数(本/m ²)	570~620	490~540
葉色(葉緑素計)	33~35	30~32

3) 高温登熟対策

- 出穂後は、「飽水管理」を行い、走水等により土壌を常に湿潤状態に保ちましょう。
(飽水管理を行うことで、日中及び夜温の地温上昇を抑えることができ、湛水管理よりも白未熟粒の発生を抑制することが期待できます。)
- 落水時期は、出穂後 30 日以降を目安としましょう。
- 籾数過多や登熟期の窒素栄養不足により白未熟粒の発生が助長されるので、ほ場毎の地力に応じた適正な施肥管理に努め、必要に応じて適期に追肥を行いましょ。
- 刈遅れにならないよう収穫機や乾燥調製施設等の清掃・点検等を早めに行いましょう。
- 収穫適期は、出穂後の積算気温と併せて、籾の黄化程度や籾水分を確認して判断しましょう。

4. 病害虫防除

1) 病害虫防除所 発生予報第4号 (宮城県病害虫防除所 6/24 発行)

～葉いもち、イナゴ類の発生に注意、草刈りを出穂 10 日前までに終えましょう～

*発生量および発生時期は、発生予報第4号(宮城県病害虫防除所 6/24 発行)に基づいています。

▶葉いもち……発生量「平年並」

発生時期(発生開始期)「7月第1半旬(7/1～7/5)平年並」の予報

○ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認したら直ちに防除しましょう。特に、穂いもちの伝染源となる上位葉での感染には注意が必要です。

○特に、萌えみのり、金のいぶきなどのいもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培などでは注意しましょう。

▶イナゴ類(コバネイナゴ)……発生量「やや少」

発生時期(本田侵入盛期)「7月第2半旬(7/6～7/10)平年並」の予報

○齢が進んだ個体は薬剤の効果が低下するので、中齢幼虫(体長 1.5cm 程度)までに散布しましょう。

2) 注意が必要な病害虫

▶斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)

○畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の 10 日前までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。

○栗原市の水稻の出穂前後の草刈り自粛期間 7月25日(木)から8月23日(金)まで(栗原市水稻カメムシ被害抑制対策本部)

○斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期とその7～10 日後の2回防除を徹底しましょう。

▶紋枯病

○前年に紋枯病が多発したほ場では、穂揃期に茎葉散布剤を散布しましょう。

○高温多湿で発生しやすく、前年多発したほ場では、注意が必要です。

▶稲こうじ病

○穂ばらみ期に低温で降雨日数が多いと発生しやすくなります。

○銅剤による防除適期は、出穂 10～20 日前です。